

頭痛・歯痛・神経痛・生理痛・解熱

メデス S

医薬品

⚠ 使用上の注意

❌ してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります。)

1. 次の人は服用しないでください。

- (1) 本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。

2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください。

他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬、乗物酔い薬

3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください。

(眠気があらわれることがあります。)

4. 服用時は飲酒しないでください。

5. 長期連用しないでください。



相談すること

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師又は薬剤師に相談してください。

- (1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
- (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
- (3) 水痘(水ぼうそう)若しくはインフルエンザにかかっている又はその疑いのある乳・幼・小児(15歳未満)。
- (4) 高齢者。
- (5) 本人又は家族がアレルギー体質の人。
- (6) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (7) 次の診断を受けた人。

心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師又は薬剤師に相談してください。

(1) 服用後、次の症状があらわれた場合

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	悪心・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐにじんましん、浮腫、胸苦しさ等とともに、顔色が青白くなり、手足が冷たくなり、冷や汗、息苦しさ等があらわれます。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群) 中毒性表皮壊死症 (ライエル症候群)	高熱を伴って、発疹・発赤、火傷様の水ぶくれ等の激しい症状が、全身の皮膚、口や目の粘膜にあらわれます。
肝機能障害	全身のだるさ、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)等があらわれます。
ぜんそく	

(2) 5～6回服用しても症状がよくならない場合

- ◇ **効能又は効果** (1) 頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・月経痛(生理痛)・外傷痛の鎮痛。
- (2) 悪寒・発熱時の解熱。

◇ **用法及び用量** 次の量を、なるべく空腹時をさけて服用してください。

年 齢	1 回 量	1 日服用回数	服用間隔
15歳以上	3 錠	3 回を限度	4 時間以上
11歳以上15歳未満	2 錠		
7 歳以上11歳未満	1.5錠		
5 歳以上 7 歳未満	1 錠		
5 歳未満	服用しないこと		

- (1) 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させてください。
- (2) 5歳以上の幼児に服用させる場合には、薬剤がのどにつかえることのないよう、よく注意してください。
- (3) 錠剤の取り出し方

右図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押して裏面のアルミ箔を破り、取り出してお飲みください。

(誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります)

〈PTPシートの取り出し図〉



◇ **成分及び分量** 9錠中

アセトアミノフェン ……………900mg エテンザミド……………800mg
 アリルイソプロピルアセチル尿素 ……180mg 無水カフェイン……………200mg
 添加物として乳糖、無水ケイ酸、カルメロースCa、ヒドロキシプロピルセルロース、タルク、ステアリン酸Mg、酪酸リボフラビンを含有する。

◇ **保管及び取扱い上の注意**

- (1) 直射日光の当たらない、湿気の少ない、涼しい所に保管してください。
- (2) 小児の手の届かない所に保管してください。
- (3) 他の容器に入れ替えないでください。(誤用の原因になったり品質が変わります。)
- (4) 期限をすぎた製品は服用しないでください。

お客様相談窓口 TEL 076-476-1111
 9:00~16:30 (土、日、祝祭日は除きます。)



製造販売元
明治製薬株式会社
 富山県滑川市中川原77